

【下部消化管内視鏡（大腸カメラ）検査・治療の説明書および同意書】

1. 目的と必要性

内視鏡を肛門から挿入し大腸を直接カメラで観察します。炎症、ポリープ、がんなどの異常がないか調べます。異常を認めた場合、病変組織の一部を採取（生検）、ポリープ切除などの検査・治療を行うことができます。

2. 検査前日および当日の注意事項

□検査前日

- 午後9時までに夕食（内容は裏面参照）を済ませてください。
- 夕食以降は水やお茶、スポーツ飲料を摂取してください。
- 眠前(午後9～10時)に 下剤(ラキソベロン液1本全量)をコップ1杯の水に溶かして飲んでください。

□検査当日

- 朝は絶食です。
- お通じを良くするため、水やお茶、スポーツ飲料を多めに飲んでください。
- 内服薬は、かかりつけ医に確認をお願いします。（血をサラサラにする薬剤を内服していた場合、組織検査を行えない事もありますので、ご了承ください。）
- 来院時に、500mLの水を持参ください。（お茶・スポーツ飲料は控えてください。）
- 当クリニックで下剤（約1L）を飲まれる方は、午前8時30分にご来院ください。（約1時間かけて服用していただきます。）
- ご自宅で下剤（約1L）を飲まれる方は午前7時から服用し、午前10時にご来院ください。
- 下剤で便が出て、水のようにになると検査の準備は完了です。（看護師が確認します。）
- 検査着に着替えていただき、鎮静剤と鎮痛剤の注射を行います。
- 検査を開始します。時間は15～30分ほどの予定です。
- 検査後は休憩室で休んでいただいてから、検査結果を報告します。

3. 検査後の注意点

- 検査当日は 帰宅後も車・バイク・自転車の運転は控えてください。
- 検査当日は飲酒はご遠慮ください。
- ポリープ切除をした場合は、1週間は飲酒・ジョギングやジムなどの激しい運動は控えてください。

4. 偶発症

- 薬剤によるアレルギー、鎮静剤や鎮痛剤による呼吸状態の悪化や血圧低下、内視鏡による出血や穿孔（穴が開くこと）などが主な偶発症です。輸血や手術が必要となることがあります。
- 偶発症の発生率は1/8000程度と稀ですが、症状によっては入院や手術が必要であったり、生命にかかわる事もあります。万が一、偶発症が発生した場合は最善の処置および対応を行います。

5. 代替可能な検査

- 大腸の検査は、内視鏡検査以外に、バリウムを用いた注腸検査や、大腸CT検査などがあります。しかし、これらの検査では異常を認めた場合に組織検査やポリープ切除はできません。